

高品質でスピーディーな要求仕様作成の研究

—ユーザー企業とベンダー間で認識齟齬の無い RFP を作成するために—

アブストラクト

1. 背景

経営を取り巻く環境が著しく変化する中で、システム更新の速さと短納期リリースが求められている。上記背景の中で、老朽化した IT 基盤や基幹システムが経営戦略や事業運営上の足枷となっている。このため、システム刷新に取り組む企業が増える一方、失敗するプロジェクトが多い。限られた予算と期間の中でプロジェクトを成功させるためには、多様化する技術やサービスの中から最善な投資内容を選定する必要があり、RFP（要求仕様）作成の高品質化とスピードアップが求められる。しかし、多数の先行研究やガイドが存在するにも関わらず現在も実現には至っていない。これらの原因を究明し解決するための研究が必要であると判断した。RFP はユーザー企業とベンダーという異なる立場を繋ぐコミュニケーション媒体であるため、ユーザー企業のメンバーとベンダーのメンバーの双方が参画している研究環境を有効活用し、双方の立場から意見を交えることで解を導くことにした。

2. 研究アプローチ

(1) 高品質でスピーディーな RFP の定義

本分科会メンバーを含めユーザー企業 10 社 36 名、ベンダー 12 社 40 名にアンケートを採って問題点を分析した結果、本分科会では以下の表 1 を「高品質でスピーディーな RFP 作成」と定義した。

表 1 本分科会での高品質でスピーディーな RFP 作成の定義

分類	定義	ユーザー企業	ベンダー
品質	① ベンダーにユーザー企業の意図している背景、狙い、範囲に沿った提案をしやすくし、提案書どうしの比較検討がしやすい	○	○
	② 最適な価格、内容であるうえで、提案書と要件定義結果の内容及び金額の差が少ない	○	○
スピーディー	① RFP の作成とレビューにかかる時間が短い	○	—
	② RFP の提示から提案書受領までの時間が短い（工数が少ない）	○	○
	③ 提案書受領から選定完了（発注）までの時間が短い（工数が少ない）	○	—

(2) 解決すべき課題の設定

上記 2. (1) で定義した高品質でスピーディーな RFP 作成を実現するにあたり、本分科会で解決すべき課題を下記に設定した。

- ① RFP に何をどこまで記載すれば良いか分からない
- ② ユーザー企業が必要と考える情報とベンダーが必要な情報に GAP がある
- ③ ユーザー企業が伝えたいことがベンダーに伝わっていない

(3) 課題に対する解決策の立案

解決策を立案するにあたり、最初に RFP の記載内容を左右する要素を明確にした。

RFP の記載項目を左右する要素はシステム化方式であると考え、「パターン」と定義した。

RFP の記載粒度を左右する要素は RFP 作成の検討プロセスであると考え「グレード」と定義した。

その上で、課題に対する解決策を下記に設定した。

- ① パターン／グレードごとの RFP に必要な記載項目と記載粒度の明確化

- ② パターン／グレードごとの提案依頼範囲とレベルの明確化・ならびにベンダーとの共有
- ③ ユーザー要件を表現する最適な情報項目の確立

3. 研究成果

2. (3)で述べた解決策を実行するために、実プロジェクトで利用可能な形にしたものを本分科会の成果物とした。表2に解決策と成果物の関係性を記載する。

表2 課題の解決策と成果物の関係

課題の解決策	成果物
①パターン／グレードごとのRFPに必要な記載項目と記載粒度の明確化	・機能要求グレード ・RFPチェックシート
②パターン／グレードごとの提案依頼範囲とレベルの明確化ならびにベンダーとの共有	
③ユーザー要件を表現する最適な情報項目の確立	・要件整理シート ・要件整理チェックシート

成果物の概要と適用イメージを下記に記載する (図1)。

- (1) 機能要求グレード・RFPチェックシート
機能要求グレードは、グレードとパターンに応じて、RFPに記載すべき項目と各項目の記載粒度を決定するための成果物である。RFPチェックシートは、機能要求グレードを用いて作成したRFPに関して機能要求グレードでの定義に即した記載であるかの品質を可視化するツールである。

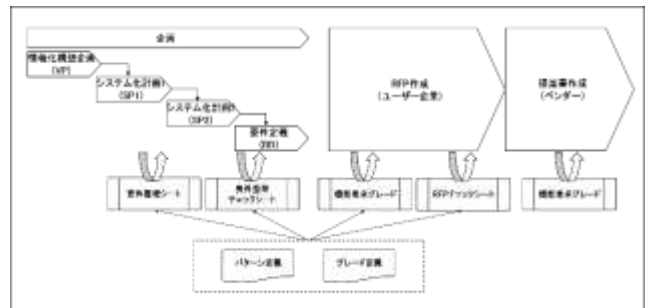


図1 成果物の適用イメージ

- (2) 要件整理シート・要件整理チェックシート
要件整理シートは、ユーザー要件の真意を示すために、RFPに記載すべき情報を抽出・整理するシートである。要件整理チェックシートは、要件整理シートの記入内容がユーザー企業とベンダー間で認識齟齬が発生しない程度にまで品質が達しているかの品質を可視化するツールである。

4. 検証・考察

仮説を立てた解決策の有用性を、以下の2つのアプローチで検証した。

- (1) 過去のプロジェクトで作成したRFP／提案書／要件定義書を用いた検証
本分科会で作成した成果物(解決策)が課題に対して有用であることを立証するための検証である。「高品質」な過去プロジェクトと本分科会で作成した成果物適用結果の相関関係を証明し、本分科会で作成した成果物(解決策)が2.(2)の3つの課題に対して有用であることを立証した。
- (2) アンケートを用いた検証
本分科会で作成した成果物(解決策)が2.(1)で定義した「高品質でスピーディーなRFP作成」に対し有用であることを立証するための検証である。本分科会メンバーが所属する会社及び外部会社に対してアンケートを実施した。結果、RFP作成に関する施策だけで制御出来るものに対しては有用であることを立証したが、一部の解決策については有用であることを立証するには至らなかった。RFP作成以外の施策検討は残課題である。

5. 総括

「ベンダーにユーザー企業の意図している背景、狙い、範囲に沿った提案をしやすくするRFPの作成」及び「RFP作成とレビューに要する時間削減」については有用性を立証できた。そこで本分科会で整備した成果物を経済産業省主催の非機能要求グレード評価委員会から公表されている非機能要求グレードとあわせて活用していただくことを提言する。